

Care & Communication

ケア&コミュニケーション



THE FRONT LINE

内科的アプローチや食事指導も
取り入れながら病気になる
体づくりを重視する複合型歯科医院

28Clinic 野上歯科医院 理事長
野上 宏明 先生

P01-06



INSIDE REPORT

天然歯を保護するため、
金属床義歯とインプラントによる
「感動治療」を提供

上浦歯科クリニック 院長
上浦 庸司 先生

P07-12



DOCTOR'S TALK

医科や介護とも連携し、
積極的な指導による
訪問診療で「噛む力」を取り戻す

北村歯科医院 院長
服部 信一 先生

P13-16



DENTAL REPORT

幅広い治療とともに
障がい者歯科にも対応する
地域密着型歯科医院

吉村歯科医院 院長
吉村 治範 先生
吉村歯科医院 副院長
吉村 裕美子 先生

P17-19



動線を考えた診療室



イトインのカフェスペース



メディカルフィットネスルーム

内科的アプローチや 食事指導も取り入れながら 病気にならない体づくりを 重視する複合型歯科医院

埼玉県熊谷市にある「28CliniC 野上歯科医院」は歯科を核にしながら、健康に生きる体づくりを重視した診療方針を持っている。その考えが誕生した背景や具体的な取り組みについて伺ってみた。

28CliniC 野上歯科医院 理事長 野上 宏明 先生



カフェやフィットネス設備も 併設した複合型の歯科医院

JR熊谷駅から5分ほど歩くと洒落た外観の「28CliniC 野上歯科医院」（以下、野上歯科医院）が見えてくる。4階までのスペースを含めると、建築面積は850㎡にもなる。野上歯科医院のもっとも大きな特徴は、歯科医院の設備が充実しているだけでなく、内科も併設していることだ。

1階のエントランスを入ると右手にイートインスペースを備えたカフェ「28Cafe」があり、左手の奥にはメディカルフィットネスルームがある。2階には、階段を上った正面に美術書や医学書が並ぶライブラリースペースがあり、左手には、内科の診察室も兼ねたカウンセリングルームと点滴室、歯科技工室が設けられている。歯科治療を行うのは、3階にある広々とした診療室だ。ユニットが8台あり、CTを備えたレントゲン室、準備・滅菌室、キッズスペースがある。

「病気にならない体を目指すというコンセプトを追求すると、これだけの規模が必要になりました」と野上宏明理事長は話す。超高齢社会になり、病気を予防し、健康を維持することは社会全体の課題だ。

「これからの医療はさらに予防が重視されます。まずは

健康な口腔を維持し、しっかりと噛む食事ができる環境を整えることが大切です。その上で、詳細な血液検査で細胞レベルまでの内科的チェックを通じて、自分の健康状態を定期的に把握していただく。さらに、それらのメディカルチェックを元に食事を改善したり、身体の動かし方を学んでいただく。こうした総合的なアプローチを実践することで、日常生活を快適に過ごしていただきたいのです」

歯科治療と分子整合栄養医学による 内科的アプローチを組み合わせる

野上理事長が全身の予防医学にも取り組むようになったのは、つねに質の高い医療とは何かを追求してきたことが関係している。

野上理事長は、野上歯科医院を開業した祖父、2代目を継いだ父の影響もあり、小さい頃から歯科医師になると決めていた。

「私の専門が口腔外科であることや父も保険診療の枠にとらわれない自費診療を多く手がけており、私も同じように徹底的に質にこだわる診療を行いたい」と思い、恵比寿の協立歯科に勤務しました」

協立歯科が帝国ホテルプラザにある「クリニック



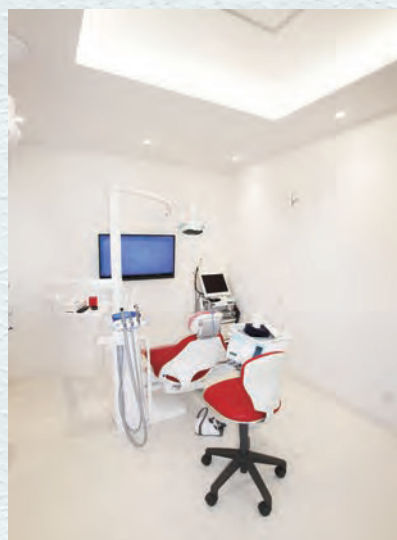
2階の受付と待合スペース。奥に内科の診察室を兼ねたカウンセリングルーム、点滴室、歯科技工室がある



天井には医療用空気浄化装置を設置



マイクロスコープも備えたオペ室



プライバシーを考えた半個室

デュポワ』として移転した後も野上理事長は、理事・副院長としてを勤務を続け、野上歯科医院でも月1、2回、口腔外科を担当していた。その勤務医時代にセミナーを通じて、「分子整合栄養医学」に出会った。分子整合栄養医学とは、病気や体調不良を細胞レベルの栄養療法で改善していく内科的アプローチだ。

身体の細胞は、摂取した食物の栄養を材料に日々、入れ替わることで生命維持に最適な状態を保っている。しかし、食生活の偏りや過剰なストレス、加齢、腸内環境の乱れなどにより、栄養が欠損したり、代謝異常になると、生体恒常性が乱れ、病気や体調不良が起こる。そこで、栄養の過不足を細胞レベルで修正することで、身体に本来、備わっている自然治癒力を取り戻そうというのだ。

野上理事長が分子整合栄養医学に強く惹かれたのは、病気の予防を重視する考え方に加え、趣味のトライアスロンの影響もあった。

「高負荷の運動を長時間続けるには適切な栄養補給が

欠かせません。以前から栄養の摂り方でパフォーマンスの結果がまったく違うことに気づいていましたが、分子整合栄養医学を学んだことで理論の裏付けが得られました。実践してみると確かにレース運びが楽になるのです。歯科は栄養との関わりも深い。そこで、歯科を核として、分子整合栄養医学の知識と実践を組み合わせれば、患者の皆様の健康に役立つと考えたのです」

2017年3月、野上理事長が温めていた理想が形になり、現在の歯科医院が誕生した。受け継いだ歯科医院を拡大発展させての移転開業だった。

歯科治療を基本に必要な応じて 内科的アプローチも

現在の患者数は1日80人ほど。9割が口コミで、遠くは、米国ロサンゼルスから訪れる患者もいる。野上



カフェは一般利用も可能



糖質制限を考えたランチ



メニューにはスムージーなども



ゆったりと食事ができる飲食スペース



2階から見たカフェ

歯科医院では予約と治療時間の管理を徹底し、厳守している。

初診の患者は、まず口腔のチェックを受け、歯科治療からスタートする。患者がどのようなゴールを希望しても対応できるように、野上歯科医院では、一般歯科から、予防歯科、矯正歯科、審美歯科、インプラントと高度歯科治療まで対応できる体制を整えている。

歯科治療の過程で内科的なアプローチも必要と考えられる場合は内科医と連携し、75項目以上の血液検査により全身の状態を把握した上で、分子栄養医学に基づいた栄養療法を行ったり、メディカルフィットネスで歩き方や身体の動かし方なども指導していく。

「たとえば、唾液が出にくい高齢の患者の皆様には、口腔環境を整えるとともに、栄養の偏りを改善するために食事指導をしたり、サプリメントで補うことをお勧めしています。歯科と内科からアプローチしていくと、患者の

皆様自身も身体の変化に気づかれ、健康を維持していきたいという意欲が高まることが多いのです」

こうした診療体制には、マンパワーも重要だ。歯科医師は野上理事長に加え、4名が常勤で勤務。歯科衛生士は7名、助手が3名、歯科技工士1名、受付2名、秘書兼ドクターマネージャーが1名いる。内科医は非常勤での診療だ。カフェには栄養士が常駐し、メディカルフィットネスルームは運動療法士の資格を持つ鍼灸師が管理している。

野上理事長は「スタッフの健康に気を配ることも、歯科医院経営者の務め」として、カフェには職員用食堂の機能も持たせている。

複合型の歯科医院を作るにあたっては苦労もあった。歯科と内科を併設した施設は全国でも珍しい。入り口を2つ設け、フロアを分けることで診療科の課題をクリアした。

「カフェの併設も課題でした。28Cafeは近隣の方にも



2階のライブラリー



フィットネスルームの隣にはコンディショニングルームも



鍼灸師がいるコンディショニングルーム

利用していただけるようにしているのですが、不特定多数の方が利用する場合、パンデミックを防ぐ配慮が必要です。保健所にもアドバイスを受けながら、設計を工夫することで乗り切りました」

次世代の歯科医院像を提示し さらに裾野を広げていきたい

野上理事長は「これから取り組みたいことがたくさんある」と話す。その一つとして積極的に取り組んでいるのが、患者対象の健康セミナーだ。

2017年は5回開催。栄養と健康をテーマにしたり、楽しく興味を持ってもらいたいと落語会を主催した

こともある。小児矯正のセミナーは定員60名のメディカルフィットネスルームが満員になるほど盛況だった。

「患者の皆様からのリクエストで、インプラントセミナーも開催しました。自分の体のことは正しく理解したいと考えている方は多いと感じています」

もう一つの目標は、カフェやメディカルフィットネスルームの利用率を上げていくことだ。分子整合栄養医学を分かりやすく伝える場でもあるカフェは、糖質コントロールの参考になるランチメニューを提供している。また、メディカルフィットネスルームでは、高齢になっても日常動作で不自由しないように、取り組みやすいストレッチや筋トレを指導している。こうした適切な食事や運動の大切さをもっと広げていきたい



棚の右奥に準備・滅菌室がある



クラスB機器を備えた準備・滅菌室



2階にある点滴室



CTを備えたレントゲン室

と考えている。

「次世代の歯科医院を考えたとき、治療中心のクリニックでは経営も難しくなると考えています。患者の皆様へのサービスの充実と安定した経営を両立させるには、複合的な機能を持ち、収益が得られる範囲を広げていくことが必要でしょう。勉強会などを通じて、私の考えに賛同してくれる仲間を増やしていくことにも力を入れていきたいです」



野上理事長とスタッフのみなさん

PROFILE

野上 宏明 先生

- 1999年 東京歯科大学卒業。東京歯科大学水道橋病院口腔外科入局。医療法人栄宏会野上歯科医院理事就任
- 2001年 医療法人社団協立歯科(現クリニックデュボワ)入社 ●2004年 協立歯科クリニックデュボワ理事・副院長就任 ●2013年 第9期分子整合栄養医学講座修了 ●2014年 日本大学博士課程修了。歯学博士
- 2015年 野上歯科医院理事長・院長に就任 ●2017年 協立歯科クリニックデュボワ退職。28Clinic 野上歯科医院、移転開業 ●ニューヨーク大学審美・インプラントコース卒業 ●ペンシルベニア大学歯周病スタディークラブ修了

医療法人栄宏会
28Clinic 野上歯科医院

住所：埼玉県熊谷市銀座1丁目188 TEL:048-521-1333 HP:<http://www.28clinic.jp>



和の要素も取り入れたエントランス



居心地のよい待合スペース



広々とした受付

天然歯を保護するため、 金属床義歯と インプラントによる 「感動治療」を提供

「上浦歯科クリニック」は、「健康増進」と「幸福は口福から」を診療方針に掲げている。義父の歯科医院の院長を経て、自身の歯科医院を持った上浦庸司院長に理想の治療について伺ってみた。

上浦歯科クリニック 院長 上浦 庸司 先生



長年の勤務医を経て、 満を持して自身の歯科医院を開業

「上浦歯科クリニック」は、北海道の小樽運河にも近いオフィスビルの5階にある。上浦庸司院長は、義父が会長を務める医療法人社団熊澤歯科クリニックに長年、勤務し、院長を経て、2014年、自身の歯科医院を開業した。

「もともと私は、自分の歯科医院を持つことに積極的ではなく、大学で欠損補綴の研究と診療を極めたいと思っていました。そんなとき、義父から声がかかり、1996年から勤務医として手伝うようになりました。10年ほど経った頃からは、実質的な院長になりました。その後、義父も高齢になり、歯科医院の体制や経営を見直す必要が出てきたことなどから、開業することにしたのです」

同じ院長という立場でも、勤務医と経営者では気持ちの持ち方が変わってくる。「責任の所在がはっきりしたことで、治療へのモチベーションがより高くなりました」と上浦院長は話す。

熊澤歯科クリニック時代は、複数の勤務医を抱える体制だったが、上浦歯科クリニックは、常勤の歯科医師は上浦院長一人。すべての患者に自分の目が行き届くように

なったことで、理想の治療がより追求しやすくなった。

歯科医院の設計も隅々にまで目を光らせ、患者の安心感と居心地のよさを追求した。医療機器についても、オペ室に医科並みの設備を備え、耳鼻科用CTを導入するなど、「世界最高峰の設備にした」と胸を張る。

「人生の選択に迷ったときは 厳しい道を選ぶ」がモットー

上浦院長が歯科医師を目指した動機は、「アイドル歌手と結婚したかったから」というユニークなものだ。高校時代、石川秀美さんのファンだった上浦院長は、「アイドルと結婚するなら医療従事者。それも歯医者なら結婚できるかも」と考えたのだという。

「1%でも可能性があるなら、と考えたのです。また、小学校の頃から走るのが好きで、今も趣味はマラソンですが、中学時代は陸上選手でした。大学駅伝への憧れや、祖母や両親へ孝行したいという思いから、北海道大学を目指すようになりました。難関校ですし、アイドルとの結婚を目標にしたのは、受験のモチベーションを上げるための理由づけを強化したかったんですね」

上浦院長のモットーは、「人生の選択に迷ったら、



効率よく配置された第2診療室



大型モニターも設置された第1診療室



フラットチェアを採用

難しいほうを選ぶ」。北大歯学部を目指したのも、その後、欠損補綴を専門に学ぶことにしたのも、その姿勢の現れだ。医局時代は、実習で一番厳しいと言われていた北大の第一補綴医局に入局。野谷健治教授の下で夜中まで技工やレポート作成に明け暮れた。このとき、野谷教授に厳しく指導された経験が上浦院長に大きな影響を与え、歯科医師人生の基礎を作ることになったという。

その後も、さまざまな師の教えが道を拓いてくれた。インプラントでは、スタディグループ「CID club」の代表の勝山英明歯科医師の教えを受けたことが財産となった。「補綴科では外科処置をしたことがほとんどありませんでしたから、インプラントの勉強会では発表すると

批難の集中砲火です。辛い日々でしたが、その悔しさがあったからこそ、必死で学ぶ意欲も生まれました。厳しく指導してくれた野谷先生と勝山先生には本当に感謝しています」

予後の患者満足度も高い インプラントと金属床義歯

開業して3年余り経ち、現在の治療で多いのは、やはり上浦院長の専門である欠損補綴だ。事前に患者が上浦歯科クリニックの特徴を知って来院するというよりも、保険診療で来院し、欠損歯の治療を



クリーンな環境に配慮したオペ室



マクロスコープも完備



オペ室ではライブオペも可能

受ける過程でインプラントや金属床義歯を知るケースが多い。

「自分の歯で一生を過ごしてもらうためには、残った歯をどう守るかが重要です。残念ながら、保険の義歯では限界があります。金属床義歯かインプラントであれば、費用はかかっても、長い目で見れば歯の保存につながることをお話しすると、多くの患者さんには納得していただけるものです」

欠損歯をインプラントにするか、金属床義歯にするかは、欠損歯の状態に左右される。上浦院長は、下顎の場合はインプラントを第一の選択肢に勧め、上顎は欠損の状態や年齢によってインプラントか金属床義歯にするかを検討している。とくに前歯の欠損や欠損形態

が複雑な場合は、金属床義歯を勧めるケースが多い。

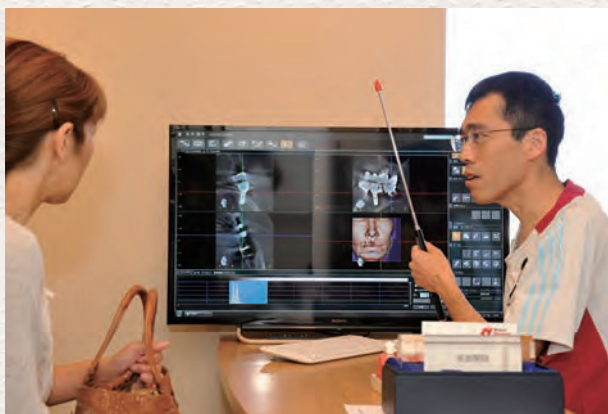
「金属床義歯も、うちではチタンを使っています。インプラントでチタンが使われていることを考えると、金属床義歯もチタンを使うほうが自然なのではないでしょうか。その結果、精巧度が上がりますし、予後がいいので、天然歯の保存にも役立ちます」

上浦院長は治療成績を口腔内で判断するだけでなく、患者アンケートの結果からも判断している。約400人の患者に口腔内の快適度を聞いたところ、インプラントがもっとも高く、金属床義歯がインプラントに近い好感触を持っていることが分かった。

「患者さんがまず望むことは噛めて、見た目がいいことです。しかし、歯科医師は、そこに天然歯を残すという



リラックスして治療が受けられる



きめ細かなカウンセリング



常に最良の治療を追求

意識も持ってもらうように働きかける必要があります。インプラントや金属床義歯の成績を具体的に示しながら勧めることは、天然歯の大切さを伝えられる絶好の機会にもなるのです」

インプラントのデジタル技術化など 意欲的に最新最良の技術を求める

現在、上浦院長が新しい試みとして積極的に取り組んでいるのが、インプラント治療のデジタル化だ。光学スキャナーを活用しているのも、その一つ。光学スキャナーと17×12cmの大型画像が得られる耳鼻科用CT

を駆使してデジタル印象が取れるようになったことで、トレイや模型を作る時間が短縮され、手術までの治療回数が1回で済むようになった。

「上部構造を作る際、歯科技工士が3Dプリンターを使うケースも増えてきています。アナログで制作するより精度が高い歯が作れます。インプラントのデジタル化によって、治療が終わるまでの期間を3分の2程度には縮められたと思います。3Dプリンターは、無駄な材料を減らすことができるので、環境保護にも役立つのがいいですね」

上浦院長は、国際学会などにも参加し、つねに最新の歯科医療に注視している。「最新の治療が最良とは限らない」と前置きしながらも、患者の負担を減らす



耳鼻科用CT



オルソパントモ撮影機



ゆったりしたトイレ



準備室



歯型模型を展示



上浦院長は今もマラソンに親しむ

ような治療には、勉強の意欲が湧くという。

患者の満足度と信頼度の高さが、高い自費診療率につながっているといえるだろう。

「歯科医師のモチベーションが高いことは、患者さんにも間違いなくよい影響を与えます。私は『感動治療』と言っているのですが、自分が感動するような人生を送っていないと、患者さんにも感動を与えられません。その気持ちを忘れずに、これからも感動治療を続けていきたいですね」



上浦院長とスタッフのみなさん

PROFILE

上浦 庸司 先生

- 1989年 北海道大学歯学部卒業。同大第一補綴学教室(有床義歯学)入局
- 1995年 北海道大学歯学部大学院卒業
- 1996年 医療法人熊澤歯科熊澤歯科クリニック勤務
- 2002年 同クリニック院長に就任
- 2014年 医療法人熊澤歯科 上浦歯科クリニック開業
- ITIフェロー実行委員
- 北海道大学臨床教授
- 小樽市衛生士専門学校教務兼非常勤講師
- 日本口腔インプラント学会
- 日本歯科補綴学会
- 小樽市歯科医師会理事
- CIDクラブ理事

医療法人社団 熊澤歯科
上浦歯科クリニック

住所:北海道小樽市稲穂2-11-13 協和稲穂ビル5F TEL:0134-64-5111 HP:<http://www.kamiura-dental.org>



医科や介護とも連携し、 積極的な指導による 訪問診療で「噛む力」を取り戻す

佐賀県佐賀市にある「北村歯科医院」は、
咀嚼機能を重視した訪問診療に力を入れている歯科医院だ。
訪問診療に力を入れることになった経緯や
実際の診療について服部信一院長に伺ってみた。



北村歯科医院 院長 服部 信一 先生

平日の午後の診療を 訪問介護の時間にあてる

北村歯科医院は、佐賀駅から徒歩10分ほどにある。
外観だけ見ると、一般的な個人経営の歯科医院に
見えるが、地域の患者たち、とくに高齢者にとっては、
なくてはならない頼れる歯科医院だ。

訪問診療を行っている歯科医院は増えているが、
1週間のうち1日か半日というところが多いのではない
だろうか。北村歯科医院の場合は、診療日の午後を、
毎日、往診と訪問診療にあてている。

「大学時代、多数歯欠損に興味を持ったことから、自然
と義歯を専門とする道に進むことになりました。しかし、
実際に治療をしてみると、咬合から見ても義歯は正しく
作られているのに、噛めないと訴える患者さんが減らない。
なぜなのだろうと疑問を追求していくうちに、噛めるかどう
かには、咀嚼の問題も関わってくることに気づいたのです」

そこで、服部信一院長は、咀嚼の勉強もしたいと
考えたが、歯科に咬合論はあっても、咀嚼論がほとんど
ないことに気づく。また、咀嚼を追求していくと、歯科医
院内のチェア上で口腔内を診るだけでなく、実際の
生活で、どのように食べているのかをチェックする必要性
にも気づくことになった。

「食事の様子を観察することを『ミールラウンド』と言い
ますが、高齢者や障害者の方が自分の口で食べる力

を取り戻すには、歯科医師だけでなく、医科の医師
や介護職の方たちとの連携も必要です。『噛む力』に
こだわっていった結果、今のような訪問診療を重視する
診療体制に変わっていったのです」

摂食嚥下機能の回復には、 医科、介護との連携も必須

服部院長が義歯や噛む行為にこだわるようになった
のは、歯科医師を目指すことになったきっかけも大きく
影響している。服部院長は子どもの頃、虫歯のため
乳歯がボロボロの状態だった。当時、乳歯は永久歯が
生えるまでのつなぎと考えられ、歯科に行っても、それ
ほど熱心な治療は行われなかった。

「子ども心に虫歯だらけの歯を恥ずかしく感じていました。
なぜ大人は入れ歯ができるのに、子どもは入れられない
のか。そんな素朴な疑問が歯に興味を持つきっかけに
なり、義歯の研究にもつながっていったのだと思います」

とはいえ、現在のように訪問診療に力を入れるようにな
ったのは、今から10年ほど前からだ。

服部院長の義父が開設した北村歯科医院を継ぐ
ことになったのは、1991年のこと。義父が体調を崩し
たことから、副院長だった服部院長が継ぐことになり、
同時に歯科医院をリニューアルした。

院長に就任してからも、一般歯科が中心だったが、地域



アットホームな診療室



筋肉の構造が分かる頭部模型



口腔ケア練習用の頭部模型

で長く診療してきたこともあり、患者の高齢化が進んでいた。「厚生労働省が高齢化社会に備え、訪問診療の保険点数を上げたことや介護施設などからの依頼が増えてきたことも、高齢者の歯科に目を向けるきっかけになりました。とくに私が重視したのは、摂食嚥下障害です。摂食嚥下障害は歯科医師だけでなく、医師や栄養士、介護士、ヘルパー、介護施設の職員など、高齢者の生活を支える専門家が協力して対策を練る必要があります。そこで、佐賀県の歯科医師会に『佐賀摂食嚥下研究会』の本部を設けるように交渉したのです」

現在、研究会には約200名の会員が在籍し、それぞれの専門の立場から研究成果や対策の情報交換を行っている。

毎日ケアする介護者にも分かる 機能回復に役立つ報告書を作成

現在、服部院長は勤務歴25年のベテラン歯科衛生士、山田千恵子さんをリーダーに歯科衛生士5名と共に介護施設や病院を訪問している。依頼は、呼吸器科や内科の医師、言語聴覚士、ケアマネージャーから寄せられることが多いという。

記述式摂食嚥下評価表(例)

摂食嚥下機能報告書(ミールラウンド)

平成■年 ■月■日実施

- ①嚥下反射
アイスマッサージにおける反射は反転音は減弱傾向にありますが、正常です。
- ②舌機能低下
舌機能低下による舌奥の送り込み低下(前後運動中心)がみとめられ、食材によっては、一部口腔残留の可能性があります。特に左麻痺のため舌が右側に引っ張られ左側舌上に残留します。
- ③咀嚼機能
ミキサー、ソフト食など(フードテスト)、ある程度右側の残存咀嚼機能により摂食可能(左側部食塊形成)です。ただ普通食はばらけて、はなはだきついです。
- ④水飲みテスト
水分は、流こみの危険性あり(発話中)嚥下反射と連携が取れにくい状態です。
- ⑤食塊形成
左側咀嚼能力は低下し、左側舌機能低下の影響もあり、今後、食塊形成不全となる可能性を認めます。
- ⑥輪状軟骨の位置低下
位置低下に伴って頸部周囲筋も機能低下を認めます。

結果

この患者の嚥下リスクは、咽頭残留で、現在のソフト食などと連携がとれておりますが、嚥下のタイミングに注意を要します。したがって、現状では、施設での食材は適当ですが、在宅で不可能ならば普通食、特におかゆ、いろんな食材がまざった副食は誤ると咽頭残留のリスクがあります。そこで柔らかい煮炊、副食は1食材で刻み食として、それも分離をしないようトロミかあんかけ状にするしかないと考えます。最後は、クリアーにするためゼリー食を加えた方がベストだと考えます。一方の見方からすれば舌機能低下予防には非常に適切で、もしこの行動低下をするようなことが出てくれば、麻痺側、健側も含め舌機能運動リハビリは必須なものになります。

平成■年 ■月■日報告

日本口腔ケア学会認定医 食支援認定士
北村歯科医院 服部信一

「医科の先生方は誤飲性肺炎の教育を受けているので、口腔ケアについての関心は非常に高い。私はそうした先生方を対象にしたセミナーなどでは、摂食嚥下障害は舌が動くかどうか重要で、口腔ケアの一つとして筋肉トレーニングをすることが重要とお話しています」

実際のケアでは、まずは顔を外側から触ることから始める。表情筋のストレッチで、口周りの筋肉をほぐすのだ。次に超音波ブラシを使い、口腔内をクリーニングすると同時に唾液腺や舌を刺激するように動かす。その後、保湿剤を塗布してから、口の中のストレッチを行う。「一人の患者さんにかかる診療時間のうち、半分ほどの時間は口の中の筋肉ストレッチに使っています。超音波歯ブラシ以外に歯間ブラシを使うこともあります」

また、昼食時に訪問し、患者が実際にどのように食事をしているのかを観察し、その際には嚥下内視鏡を使用する場合もある。

その上で、服部院長は介護施設の職員たちの指導も熱心に取り組んでいる。北村歯科医院の訪問診療チームが訪問できるのは、1週間に1回。訪問できない日も毎日、ケアすることができれば、機能回復にかかる時間を短縮できるからだ。

介護施設の職員とも協力し合い、口腔ケアを続けた

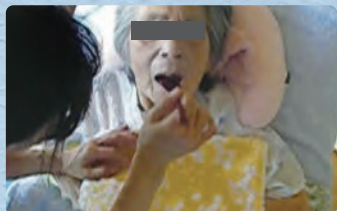
訪問診療の風景



車で訪問診療



施設訪問診療



自宅訪問診療

手話
テキスト



服部院長とスタッフのみなさん

結果、胃瘻が必要と診断された患者が1ヵ月ほどで口から食事ができるようになったケースもあったという。

口腔ケアを重視すると 歯科の活躍が広がる

服部院長は、訪問診療の際、患者の摂食嚥下機能が今、どのような状態にあるか、効果的なケアや摂取可能な食品の種類など、詳細に記録した記述式報告書を介護施設や病院のスタッフに向けて残している。「摂食嚥下機能を維持するためのケアはエンドレスです。効果的なケアを続けていけば、患者さんは亡くなるまで自分の口で食べることができます。そのためにも、報告書は、〇×式のチェックではなく、記述式の評価表で渡すことが重要です。ケアする方たちが理解しやすく、実践しや

すい形で食事の姿勢や食べやすい食品を教えるのも、私たちの役目なのです」

高齢者の口腔ケアから始まった北村歯科医院の取り組みは、がん患者の口腔ケアにまで対象が広がっている。抗がん剤治療などの副作用により、口腔内のトラブルを抱える人は多いからだ。

また、障がい者や妊婦の口腔ケア、口臭・歯周病治療、いびき・無呼吸症候群、ドライマウス、呑気症（嚥もしめ症候群）にも積極的に取り組んでいる。

「聴覚障害の患者さんもうらっしゃるので、手話も15年ほど前に覚えました」と服部院長は話す。

北村歯科医院は、5年程前から国立病院機構佐賀病院とも連携している。医科や介護とも密に連携するようになると、歯科が活躍できる場はさらに広がる。その実践にいち早く取り組んでいるのが北村歯科医院と言えるだろう。

PROFILE

服部 信一 先生

●1979年 県立九州歯科大学卒業 ●1982年 同大学院修了(歯学博士) ●1991年 北村歯科医院院長に就任。
建物面積を広げ、新築 ●日本口腔ケア学会認定医 ●睡眠用マウスピースインストラクター(YK式) ●日本ドライマウス
研究会認定医 ●日本咀嚼学会咀嚼指導士 ●日本顎口咬合学会認定医 ●日本歯科理工学会認定医 ●介護支援
専門員(ケアマネージャー) ●著書『口腔ケアの基礎知識』(共著・末永書店)

北村歯科医院

住所: 佐賀県佐賀市神野東2-5-26 TEL: 0952-30-5232 HP: <http://web01.com/kitamura/>



受付から車椅子でも診療室に入る



ゆったりとした待合室



パーテーションで仕切られた診療室



個室の診療室

幅広い治療とともに 障がい者歯科にも対応する 地域密着型歯科医院

北海道美唄市にある「吉村歯科医院」は、
一般歯科からインプラントまで幅広く診療している。
障がい者歯科にも力を入れており、
地域の口腔衛生に寄与してきた30年の歩みを伺ってみた。

吉村歯科医院 院長 吉村 治範 先生
副院長 吉村 裕美子 先生



北海道の開業医として初めて 日本口腔インプラント学会認定医に

吉村治範院長が妻の裕美子副院長とともに、故郷の美唄市での開業を決めたのは、1988年のことだ。それから30年経ち、周囲の状況も変わってきた。美唄市の人口は減少傾向にあり、現在、約2万4000人。高齢化も進んでいるが、吉村歯科医院が地域住民にとって頼れる診療所であることは、今も変わらない。1日40～50人の患者が虫歯や歯周病、義歯などの治療で訪れている。

吉村歯科医院の診療で注目したいのが、木曜日の診療だ。インプラントの手術日として設けている。年間30件ほどのインプラント手術を行っているという。吉村院長は、大学時代、口腔外科が専門だったこともあり、1990年からインプラント治療に取り組んできた。平成9年度には、北海道の開業医として初めて日本口腔インプラント学会認定医の資格を取得。現在は、札幌にある日本口腔インプラント学会研修施設の施設長も務める。

「今の患者さんはインプラントへの関心も高い。しっかりした治療計画と精度の高い治療が求められています。そのために、勉強会などを通して、若手の歯科医師が先輩の歯科医師と一緒にインプラント治療に当たることのできる機会を増やしています」

親や施設と密に連携しながら 知的障がい者の治療に取り組む

もう一つ、力を入れているのが、知的障がい者の歯科治療だ。知的障がい者施設が徒歩10分ほどの距離にあることから縁ができ、治療に取り組むことになった。「来院数は、1日5人ほど。大人の患者さんが多いです。定期的に治療ができているおかげで、メンテナンスが中心です」

吉村院長は歯科衛生士と協力し、患者の負担が少ない治療を心がけている。とくに重視しているのが、治療を急がないことと家族や施設の職員との密なコミュニケーションだ。

「たとえば、自閉症の患者さんは、初めて出会うことに恐怖心を感じます。お母さんや施設の職員さんと相談し、治療の内容を分かりやすく説明するにはどうしたらいいか、患者さんの苦手なことは何かなど、信頼関係を結ぶための情報交換は綿密に行っています」

そうした努力の結果、通院に慣れ、一般の患者と同じように短時間のメンテナンスを済ませ、帰宅する人も多いという。

また、裕美子副院長が中心になり、MFT（口腔筋機能療法）にも取り組んできた。MFTは、口まわりの筋肉を強化し、バランスを整えることで、正しく機能させるプログラム。不正咬合の原因でもある舌癖や口呼吸などの



インプラントも行うオペ室



インプラント専門歯科衛生士の認定書



CTを完備



セレックも完備

改善に役立つ。

「一般的な矯正だけでなく、口蓋裂の修復などでもMFTは大切です。じつは私たちの三女がダウン症ということもあり、ダウン症のお子さんを持つ親御さんたちとの交流が増えました。その過程で、ダウン症児は口を閉じるのが難しく、口呼吸が多いことに気づいたのです」(裕美子副院長)

そこで、裕美子副院長は、ダウン症児の会や療育センター、医院のホームページを通じて、MFT情報を伝える活動に取り組むようになった。とくにホームページでは、遊びを取り入れながら親子のスキンシップの延長としてできる方法など、さめ細かな情報を提供している。「ホームページで紹介したのはかなり前のことですが、今も患者さんの役に立つのなら、と掲載しています」(裕美子副院長)

診療室にある大きなテーブルで行われる。

「私と妻は口腔外科学講座で知り合ったのですが、当時の医局の雰囲気がこのテーブルにも現れていますね」と吉村院長は笑う。

また、歯科衛生士の中には、インプラント専門歯科衛生士認定証を持つスタッフもいる。吉村院長は、高い専門性を持つ歯科衛生士をもっと育てたいと日本口腔インプラント学会に歯科衛生士向けの専門部会を立ち上げ、約半年間のセミナーも開催している。

「専門性を生かし、プライドを持って仕事することは歯科医師だけでなく、歯科衛生士にも必要です。これからも、さまざまな形でインプラントに関わる歯科医療従事者のレベルを上げる取り組みを続けていきたいですね」

家庭でできる口腔筋機能療法など 患者に役立つ情報提供にも力を入れる

吉村歯科医院には、ほっとするような温かな雰囲気がある。チームワークのよさが居心地のいい空間を生み出しているのだろう。院内に院長室はなく、ミーティングは、



吉村治範院長と裕美子副院長、スタッフのみなさん

PROFILE

吉村 治範 先生

●1985年 岩手医科大学歯学部卒業。同年、札幌医科大学医学部口腔外科学講座 ●1988年 吉村歯科医院を開業 ●日本口腔インプラント学会指導医・認定医 ●日本口腔インプラント学会東北・北海道支部副支部長 ●日本口腔インプラント学会指定臨床研修施設北海道形成歯科研究会施設長 ●日本口腔インプラント学会倫理委員会委員 ●日本口腔インプラント学会倫理審査委員会委員 ●ITIフェロー ●美唄歯科医師会理事

吉村歯科医院

住所：北海道美唄市東6条北1-1-1 TEL:0126-68-8860 HP:http://www.eve.ne.jp/yo_dds/



SASAKI Care & Communication Vol.45 April 2018 お問い合わせ・ご意見:『C&C』事務局 細谷俊寛

FAX 0120-566-052 <http://www.sasaki-kk.co.jp>

発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。